

平成26年度 吹田市第2次環境基本計画改訂版の進捗状況に係る環境審議会評価（案）に対する意見一覧

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	目標	意見	修正（案）、考え方など
1	1 修正	1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換	<p>ここ数年、エネルギー消費量は微減状態が続いている（20PJ前後）。このままでは、平成32年目標の平成2年比▲25%（21.2PJ→15.9PJ）の達成は極めて困難（無理）と思われる。審議会評価においても、この目標達成の厳しさと抜本的な施策の必要性を市民に示す必要があるのではないか。</p> <p>政府の温室効果ガス排出削減の目標は、2009年に国連で報告した2020年▲25%（1990年比）から、今年に国連に提出した約束草案の2030年▲18%（1990年比）と下方修正されており、吹田市も目標の見直しが必要ではないか。</p> <p><審議会評価の案> 案1：エネルギー消費量はここ数年微減状態が続いており、このままでは、平成32年度目標の達成は極めて厳しく、目標の変更も含め抜本的な施策の変更の検討をする必要があります。 案2：エネルギー消費量はここ数年微減状態が続いており、このままでは、平成32年度目標の達成は極めて厳しく、「吹田市地球温暖化対策新実行計画」の見直しを行い、抜本的な施策を実施する必要があります。</p>	<p>ご意見のとおり、平成32年度のエネルギー消費量の目標の達成は、困難な状況であると考えます。このため、審議会評価に目標達成が困難である旨を記載いたします。なお、現行の第2次環境基本計画改訂版については、平成25年度に見直しを行ったものであることから、現行の目標については、据え置き、ご意見の案2を基に以下の記載に修正します。</p> <p>【修正案（最終段落として追記）】 なお、エネルギー消費量については、このままでは平成32年度（2020年度）の目標達成が極めて困難な状況であることから、平成27年度（2015年度）に中間見直しを行う「吹田市地球温暖化対策新実行計画」において、エネルギー消費量の削減を推進する施策を立案し、積極的に取り組んでいく必要があります。</p>
2	1 修正	2 資源を大切に作る社会システムの形成	<p>3行目、「…市民・事業者の消費者としての意識の向上…」のうち、事業者は消費者ではありませんので、「・事業者」は削除。事業者については、後段で記載しています。</p>	<p>「事業者の消費者としての意識の向上」の記載は、ごみの排出量の減少を踏まえた記載となっています（ごみの排出量は、家庭系ごみと事業系のごみを合算した数値を用いています。）。また、本センテンスについては、ごみの減量やリサイクル、マイバック持参の各取組を合わせた記載としています。</p> <p>ご意見につきましては、現行の表現が分かりにくいためにいただいたご指摘であると考えますので、以下の記載に修正します。</p>
3	1 修正	2 資源を大切に作る社会システムの形成	<p>4行目「持参率向上のための取組により、一定の効果が現れています。…」となっていますが、マイバックは三角の項目なので、「持参率向上に向けた取組を進めていく必要があります。」の方がいいのでは…。また、後段はマイバック以外のことを言っているの、ここで一旦区切った方がいいと思います。</p>	<p>【修正案】 市民・事業者の排出者としての意識の向上や、事業者によるマイバック持参率向上のための取組により、<u>ごみの減量やリサイクル、マイバックの持参について、一定の効果が現れています。今後さらにこれらの取組を進めるためには、廃棄物減量等推進員制度の活用・・・。</u></p>

平成26年度 吹田市第2次環境基本計画改訂版の進捗状況に係る環境審議会評価（案）に対する意見一覧

No.	意見種類 1 修正 2 追加 3 削除 4 その他	目 標	意 見	修正（案）、考え方など
4	1 修正	4 みどりを保全・創出・活用し、市民に親しまれるまちの形成	環境基本計画改訂版の進行管理の観点においては、代表指標の評価だけでなく、指標も含めた総合的な評価を行う必要があると考えます。また、最終段落の2行「◆当該分野の・・・」は、審議会評価としては、不要であるため、削除すべきと考えます。	ご意見のとおり、指標も含めた総合的な評価を行うべきと考えますので、以下の記載に修正します。また、最終段落の2行についても、ご意見のとおり削除いたします。 【修正案】 平成26年度（2014年度）に、木々や草花などの緑が多いのでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合及び公園・緑地の利用しやすさ満足度の調査が実施されました。両指標とも前回調査時の平成22年度（2010年度）と比較し増加しています。また、緑化路線延長累計は、平成26年度（2014年度）に目標値を達成しています。しかし、市民1人当たりに対する都市公園面積及び緑あふれる未来サポーター制度（公園）の登録団体数は、横ばいとなっています。今後も吹田市第2次緑の基本計画に基づき、質及び量の双方を重視した緑化を推進する必要があります。
5	2 追加	5 快適な都市環境の創造	平成26年度（2014年度）にまちなみが美しいと感じる市民の割合の調査が実施されました。前回の調査時の平成22年度（2010年度）と比較し増加しており、景観に配慮したまちづくりが進んでいることが伺えます。の後に、「しかし、前々回（平成18年度）から前回（平成22年度）を比べると、増加率が低くなっていることから、更なる市民・事業者等への啓発や取組の支援を進めるとともに、開発事業に対する誘導に取り組んでいく必要があります。」を追記してはいかがでしょうか？	ご意見及び自己評価を踏まえ、以下の記載を追記します。 【追記案】 しかし、前々回の平成18年度（2006年度）から前回の平成22年度（2010年度）の増加率と比べると、増加率が低くなっていることから、今後も更に市民・事業者等への啓発や取組の支援を進めるとともに、開発事業に対する誘導に取り組んでいく必要があります。
6	1 修正	重点プロジェクト	すいたシニア環境大学の修了者数の減少を踏まえた評価（対象者や内容を改善する必要がある等）とすべきであると考えます。	シニア環境大学については、これまでの入学者の定員割れ及び終了者数の減少を踏まえ、平成27年度からすいた環境サポーター養成講座へ移行しています。このよう状況も踏まえ、平成26年度の審議会評価としては、ご意見のとおり以下の記載に修正します。 【修正案】 地域における環境教育の・・・「すいた環境教育フェア」が開催されています。今後も引き続き、市民が参加しやすい実践的な講座を企画・開催する必要があります。 学校や地域で環境保全活動を・・・17名の学生が学び、卒業されていますが、修了者数が減少しています。環境活動を実践する人材の育成については、対象者や内容を改善して、取組を進める必要があります。